

食事中の金総書記自ら修正指示

【ソウル16日＝森千春】

金大中・韓国大統領が南北首脳会談で訪朝した際に、特別随行員(学究代表)として同行した文正仁延世大学統一研究院長「写真」は十六日、読売新聞とのインタビューで、金正日総書記が、「世界情勢や韓国事情への理解」を備えており、日本の参加も見込む鉄道事業に関心を示したことを明らかにした。また、統一問題、離散家族、経済などで

の協力をうたった南北共同宣言作成で、金正日総書記がぎりぎりまで文言を修正するなど、陣頭指揮をとっていた様子を語った。文氏によると、南北首脳会談では、金大統領は、南北経済協力と関連して、日本から、海底トンネルを経て、朝鮮半島を通じて北京に至る鉄道建設構想を語り、金正日総書記も相当な関心を示したという。韓国側は、この例をあげて、韓

共同宣言の舞台裏



国北朝鮮の双方の利益になる開発構想には、日本、中国などを含む国際的協力が必要だと強調。北朝鮮側は

理解していたという。また、金総書記は、京義線の複線化事業に韓国企業が参加するとの案に自ら言及するなど、社会資本インフラ

韓国側特別随行員 文正仁氏に聞く

整備に強い関心を示した。文氏は、今回の南北首脳会談が成功したのは、金大統領と金総書記が「事前に相手のことをよく勉強していたので、順安空港から迎賓館までの車中の五十分間で、相当な信頼関係を構築できた」からだとして、金総書記が、会談成功のために努力していたとの見方を示した。

金総書記のやる気は、十四日深夜に発表された南北四日深夜に発表された南北共同宣言の作成にも表れた。十四日夜には、金大中大統領による客礼晩さん会が開かれ、金総書記が出席。金総書記の側近である金容淳書記が、韓国側の林東源国家情報院長(大統領特別補佐役)と宣言案の詰めを行っていた。金総書記は、金容淳書記が持ってきた宣言案を、食事のテーブルで詳細に検討した上で、修正の指示を出した。文氏が偶々、晩さん会場の外で目撃した金容淳書記は、「焦った様子で、タイプを待っていたが修正した宣言案を再び、食事中の金正日総書記に持っていて、最終的な同意が得られたという。」

文氏は、今後の南北関係の進展について、「今後二か月が重要だ」として、離散家族再会が予定されている八月十五日に向けて、肥料支援、新聞・放送社長団の訪朝、南北経済共同委員会の活動開始など、交流が進むと予想した。焦点となっている金正日総書記の訪韓は、「八月十五日前には